

関山神社は 708 年ごろに建立され、妙高の長きに渡る豊かな文化の発祥地と考えられています。この神社は妙高山の中心と考えられていて、神聖な山として信仰の対象となっていました。社殿と宮殿は、宮殿の内部に安置された銅造菩薩立像とともに、国の重要文化財に指定されています。特にこの菩薩像は朝鮮の古代の 3 つの王国の一つ、百済から 6 世紀から 7 世紀の間にもたらされた最古の仏像の一つと考えられています。現在の建物は、江戸時代末期に建てられたものです。

この地域最古の神社の一つで、この地域では毎年の夏 7 月に火祭りが行われ、地域社会全体と共に 1,300 年以上の歴史を祝います。この祭りの間に、美しい神輿が様々なパフォーマンスとともに、この地域を練り歩きます。